

園長だより「きまり・ルールを守る」 第15号

昨年度から気になっていたことがあります。それは・・・。

お迎えの時刻になると園庭は使えなくなります。玄関の前に「あそべません」という表示も出してお願いしています。でも、遊んでしまうお子さんもいます。お子さんの気持ちはわかりますよね。お家の人がお迎えに来てくれた。嬉しいなあ。お子さんの気持ちは高ぶります。いわゆる、テンションが高くなるという状況です。さあ、帰ろうと玄関を出ると、誰も遊んでいないジャングラミングや雲梯が目に入ります。

「わーい！」

でも、そこには無情にも「あそべません」の表示が・・・。

ここでお子さんが我慢・辛抱できるか、できないかはとても大切です。「きまりやルールを守る」という規範意識は幼いうちから少しずつ身に付けていかなければならない社会生活を送るためのベースになるものです。

皆さんはこのような状況の中、お子さんが遊び始めたらどのように対応されますか。

- ① 少しの時間ならいいとしばらく遊ばせる。
- ② 「あそべません」というきまりだからと言い聞かせて直ぐにやめさせる。
- ③ 園長先生に叱られるよと言って直ぐにやめさせる。
- ④ 気が済むまで遊ばせる。

さて、どれを選ばれましたか。④はないと思います。①を選ばれた方はおられますか。ここでやめさせると機嫌も悪くなるし、幼い子どもだから少しくらいいいじゃないか。そうですね。確かに幼い子どもだから許されること、許してあげなければいけないこともあります。でも、私は子どもが守れるきまりやルールは幼いうちからしっかり守らせなければいけないと考えています。「あかんもんはあかん」ということです。

②・③はお子さんにきまりを守らせてくださっています。ありがとうございます。でも、できれば②でお願いしたいです。園長先生に叱られるからだめなのではなくて、「あそべません」と表示されているからだめなんです。

年齢に応じて、子ども達にきまりやルールを守る大切さを教えていくのは保護者の皆さんの大切な役割です。これを「しつけ」と言います。もちろん保育園や小学校でも子ども達の規範意識を高めるために様々な取り組みをします。これを「学び」と言います。

お子さんが幼ければ幼いほど保護者の皆さんの果たす役割は大きくなります。「三つ子の魂百まで」「子どもは親の背中を見て育つ」等と昔から言われてきました。保護者の皆さんが社会のルールやマナーを守って生活しておられるのと同じように、お子さんにもその年齢に応じた規範意識を身に付けさせていくことが大切です。